



325団体から「消費税増税反対」の請願署名（9月28日）



「民主府政の会」第3回全体会議（10月2日）

- 松尾 孝 議員団長  
総務常任委員  
広域行政・地域振興対策特別委員
- 新井 進 議員団幹事長  
農林商工常任委員  
総合交通対策特別委員
- 梅木 紀秀 議員団副団長  
議会運営委員  
警察常任委員  
環境・防災対策特別委員
- 前窪義由紀 議員団副幹事長  
議会運営委員会理事  
建設常任委員  
広域行政・地域振興対策特別委員
- 島田 敬子 議会運営委員  
厚生労働常任委員  
産業雇用活性化特別委員
- 加味根史朗 厚生労働常任委員  
総合交通対策特別委員
- 光永 敦彦 総務常任委員  
京都再生・ブランド戦略特別委員
- 本庄 孝夫 文教常任委員  
少子高齢社会・青少年対策特別委員
- 原田 完 農林商工常任委員  
産業雇用活性化特別委員
- 久守 一敏 建設常任委員  
環境・防災対策特別委員
- 山内 佳子 文教常任委員  
京都再生・ブランド戦略特別委員
- 西脇 郁子 警察常任委員  
少子高齢社会・青少年対策特別委員



9月府議会報告・要求交流集会（10月12日）

かがやけ！ 憲法・地方自治

# 京フェスタ 2005

11/13日

雨天決行

参加協力券  
午前10時～午後3時  
宝が池公園一帯

一般●1,000円  
高齢者(70歳以上)・大学生●500円  
高校生以下と障害者は無料です。

京都市左京区宝ヶ池  
市営地下鉄烏丸線「国際会館」駅下車4-1番出口すぐ  
※会場には駐車場がありません。  
公共交通機関を利用してください。

日本共産党京都府会議員団

# 府会だより

9月  
定例議会  
2005年9月21日  
10月7日



## 新井 進 議員

(北 区)

新井議員は、小泉内閣がすすめる「小泉構造改革」について、郵政民営化や障害者「自立支援」法、そして、サラリーマン増税や消費税率の大幅引き上げ等の庶民増税について、府民の生活を守るため、国にきつぱりもの言うべきだと知事を追及しました。しかし、知事は、庶民増税について、「租税の負担水準の議論は公的サービスの水準のあり方と表裏一体」「負担の高さだけを議論することは一面的」と答弁するなど、いずれの問題でも「小泉構造改革」推進の立場を明確にしました。

京都経済の振興と雇用対策について、新井議員は、日本共産党府議団が提案してきた「伝統産業振興条例」が今議会に提案された事は大きな前進であるが、現在のベンチャー企業や企業誘致に頼る府の施策を、「中小企業振興基本条例」の制定や関連予算の増額により、伝統地場産業を振興する方向に転換すべきと求めました。

また、雇用のための企業誘致補助金と銘打ちながら、昨年まで十一億五千万円も助成をしても、六百八人



伝統地場産業の振興を (西陣夢まつり会場で)

郵政民営化、障害者「自立支援」法、庶民増税に反対を！

新井議員は、小泉内閣がすすめる「小泉構造改革」について、郵政民営化や障害者「自立支援」法、そして、サラリーマン増税や消費税率の

企業誘致に頼らず、  
伝統地場産業の振興を

しか雇用が増えていないことを指摘雇用を促すよう補助「要件」を改善することも含め、企業誘致に片寄せた府の雇用対策の抜本的な転換を求めました。

知事は、「中小企業向け施策と企業誘致が相まって、京都経済全体の発展につながる」と答弁。また、企

九月定例会で代表質問に立った新井議員は、小泉構造改革の影響から府民の暮らしと生命を守る府の姿勢、中小企業・農林業振興、雇用対策、子育て支援対策などについて質問。また、憲法九条改悪の動きに対する知事の姿勢についても追及しました。今議会では、試行ながら、質問を一問一答方式で実施できることになり、新井議員はその最初の質問者となり、緊張したやりとりがマスコミの注目をあびました。

# 小泉「改革」に追随し 府民に痛み押しつけるもの 山田知事の府政運営を厳しく批判

9月27日

## 代表 質問



**質問を終えて**

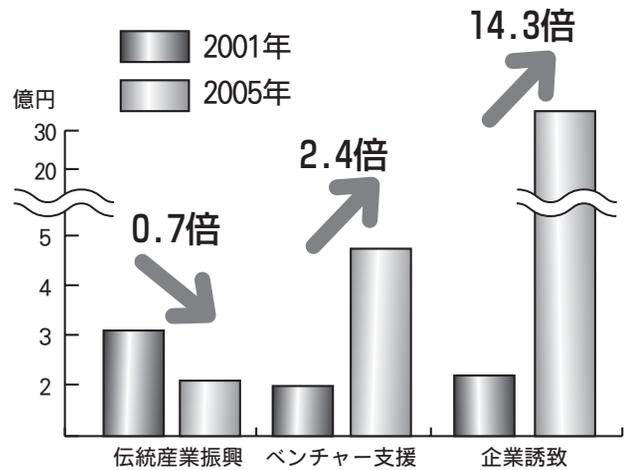
今議会から、議会の活性化のため「分割・分答方式」での質問が試行的に行われました。

準備の段階では、知事の答弁を想定し、8～9回の質問になると想定していましたが、知事の答弁があまりにもひどいので、知事も途中からカッカしたのか、質問には答えず、「質問で返す」というルール違反をする始末で、反論なども含め、結局14回も質問に立つことになりました。

知事の答弁は、経済対策や雇用問題、子育て支援など具体的な質問には答えず、「全体を見てくれ」と言い逃れの答弁を繰り返すだけです。ある議員が「叱られた子が口を尖らせて非を認めない姿と同じや」と言っていたのが当たっています。テレビで見た人からも「面白かった」「良かった」などの激励をいただき、ホッとしました。

新井

**伝統産業振興対策予算は大幅ダウン**



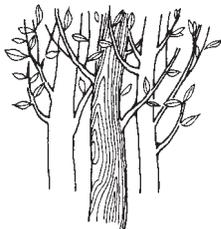
業誘致による雇用効果について、根拠のない数字を並べ「六千七百人」と強弁しました。これに対し新井議員は、「根拠の希薄な都合の良い数字を並べるようなことはすべきでない」と指摘し、「相まって効果」と言うなら、「企業誘致一社に最大二十億円を補助するのだから、せめて和装伝統産業振興予算をそれ並みにすべき」と、知事の不誠実な姿勢を批判しました。関連して新井議員は、友禊業界など京都の広範囲の業種で、「このままでは重油高騰倒産」といわれる大きな影響

が出ている問題について、府としての対策の強化を強く要望しましたが、知事は、「国のセーフティーネット保証拡充を求めつつ、政府系資金活用や制度融資の的確な運用で中小企業のニーズに因應する」「地域産業や府民生活に支障が生じないような確かな対応を求めていく」と答弁しました。

**府民のための施策を削り、不要不急事業に税金投入**

このほか、乳幼児医療費助成を通院も就学前まで無料化することや、高校生の通学費補助の拡充、また、営農組合への農業機械更新の際の助成など、子育てや農林業分野での府民要望の強い施策の実施を求めましたが、知事はいずれも冷たく拒否をしました。

これに対し新井議員は、知事は「経営改革プラン」を、「府民目線に立った税金の有効活用を目指すもの」と言うが、実態は府民の願いに背を向ける一方、府民が「急ぐ必要はな



い」と言っている畑川ダムや舞鶴港和田ふ頭、丹後リゾート公園等には数十億円もの税金を投入している。どこが「府民目線」なのかと、知事の冷たい姿勢を厳しく批判しました。

**「憲法九条改悪反対」言わず、改憲勢力と同じ姿勢**

最後に新井議員は、知事は憲法九条の改悪にどのような姿勢を取るのかと質問しましたが、知事は質問に答えることなく、「どういう九条を守るのか。はつきりさせなければならぬ」と答弁しました。これは、憲法九条の改悪問題でも、知事が、自民・民主等の改憲勢力と同じ立場に立つことを明確に示したものです。

**自治体本来の役割発揮へ 全力をあげる**

府議団

質問の最後に新井議員は、知事は「小泉改革に同感だ」と言っているが、本来、地方自治体は、国の悪政の防波堤の役割を果たすべきなのに、小泉改革と同じ方向に進もうとしている。こうした新自由主義に基づく手法は、すでにニュージーランドやドイツなどでも見直しが進み、国民の審判が下っている。日本共産党府議団は、府政が自治体本来の役割を發揮するよう全力をあげると表明し、質問を終えました。

9月29・30日

# 一般質問



島田 敬子議員  
(右京区)

## 介護保険制度改悪

### 利用者の実情を緊急調査し、 府独自の負担軽減策を

島田議員は、利用者など関係者の声をもとに、十月からのホテルコストやショートステイ、デイサービス等の大幅負担増について、「現在行われている説明会の段階から深刻な利用抑制が始めている」と指摘。「弱い立場のものを切り捨てる暴挙」と関係者が怒り心頭の今回の介護保険制度改悪について、「これが適正な負担といえるのか」「間違った『改革』に対して、キツパリと反対すべき」と迫りました。

理事者が「補足給付の創設など、従前よりも低所得者に配慮された新たな対策が講じられた」と実情を無視した答弁を行ったことに對し、島田議員は「必要な介護が受けられない事態をどう考えるのか」と再質問。

再度答弁に立った理事者は、「低所得者であるが故に必要な介護サービスが受けられない事態になつてはならないという考えは、私どもも一緒」と答えました。

この答弁を受け、島田議員は、「利用者の実情などを緊急に実態調査し、市町村とも協力して、府独自の負担軽減策を具体化すべき」と強く求めました。

### がん対策、監察医制度について提案

この他、島田議員は、がん対策について、「地域がん診療拠点病院」整備の促進、院内がん登録・地域がん登録システムの構築、早期発見のためのがん検診受診率の改善、また、監察医制度の導入などについて提案し、知事の見解を問いました。

### 質問を終えて

本会議質問に「分割方式」が導入され、私も「分割方式」で質問した。課題ことにすぐ答弁が聞けること、一回目、三回目と質問が出来るので聞いている方にも分かりやすく、大変良いと思う。問題は知事や理事者の答弁の姿勢だ。現場の具体的事実をあげて質問しても、真摯な検証がなく「保身」や「ごまかし」の姿勢が目立つのはいただけない。介護保険で「お金がないために、必要な介護が受けられないこと」があつてはならないと思うが知事はどうか」と再質問したが、知事は答弁に立たなかった。

議会活性化のために、知事や理事者は与党とのなれあいではなく、与党、野党問わず、是々非々でもっと真摯に向かい合っていたいただきたいものだ」と強く感じた。

島田



久守 一敏議員  
(伏見区)

## アスベスト対策は緊急の課題

### これ以上被害を広げないよう 対策の充実・強化を

久守議員は、まず、アスベスト問題を今日まで深刻化させてきた国と企業の責任を指摘した上で、党府議団が、八五年からくり返し追及してきたにもかかわらず、この問題を放置してきた府の責任を指摘しました。

そして、建設従事者の不安な声を紹介し、特別健診にCT検査等の二次検診も含めることや、労働局に、アスベスト問題で指導を行った府内企業四十社の情報公開を求め、条例に解体工事での周辺住民への情報提供、濃度調査、罰則の規定がないこと等について、府の対応をただし、府民の不安の声にこたえるべきと迫りました。また、中小零細の事業所等での飛散防止緊急工事について

ては、無利子・無担保・無保証の融資制度を創設し、支援するよう求めました。

理事者からは、「個人の建設従事者も特別健診の対象とし、もれなく受診されるよう周知をはかる」、健診の追加予算についても「適切に対応する」との前向きな答弁がありました。

### 「悪質リフォーム」の被害防止について

久守議員は、その他、アスベスト問題の広がりにも乗じ、いっそう深刻な「悪質リフォーム」の被害防止について、徹底した取り締まりや高齢者の生活のあらゆる場での啓発活動の強化等を求めました。

最後に久守議員は、気軽に安心してリフォームや耐震改修ができるようにするため、「住宅改修助成制度」の早期実施を求めました。

### 質問を終えて

府民の命と健康の緊急課題・アスベスト問題で、被害をこれ以上広げないように、府の実効的で緊急な対応を求めて、質問をしました。

府は、「安心・安全に万全」「対策の指導等を徹底」「全国に先駆けて」「国の法令改正までの隙間を埋める緊急措置」などと宣伝していますが、情報開示、健康被害や解体による環境被害への不安に心えず、府民に冷たい姿勢は明らかです。

他府県では、四十億円の無利子・無保証の融資（徳島）や検査機器の導入と技術者養成、環境調査や情報掲示などの対策がおこなわれています。

「府の施設、除去等の対策」に一億八千万円の補正予算が組まれましたが、「特別健診など

に千五百万円、民間指導に二百万円」と不十分に終わっています。引き続き全力で対策を求めます。

久守



梅木 紀秀議員  
(左京区)

### 「社会的ひきこもり」問題、発達障害者への支援と特別支援教育の充実を

梅木議員は、社会問題化している青少年の「社会的ひきこもり」について、ひきこもり青年を支援する民間団体の活動実態と府への要望を紹介し、「早急に支援の手を広げていくことが必要だ」と求め、具体策として、民間支援団体への財政的支援の強化と「居場所」づくりへの補助制度の創設、本府における専任職員配置など公的機関の相談窓口体制の充実、関係機関や民間支援団体のネットワーク構築と総合調整機能の強化などを提案しました。知事は、「総合的相談支援体制の確立を図り、青少年のひきこもりからの自立支援に努力する」と答弁しました。

梅木議員は、発達障害者への支援体制の整備・充実を求め、発達障害の早期発見、就学前の発達

支援、学校における発達支援、成人した障害者に対する就労支援、地域における生活支援、家族への支援を行い、発達支援の中核施設として「発達障害者支援センター」を設置することを求めました。

さらに、発達障害児への特別支援教育の充実をはかるため、どの学校にも専任の「特別支援教育コーディネーター」を配置すること、専用の「特別支援教室」を設置し、通常学級に通う子どもたちに、必要に応じて特別の教育的ニーズに応えた指導ができるよう、条件整備をすすめることを求めました。また、必要な教員の増員を行うよう文部科学省に求めるとともに、府独自に増員せよと強く求めました。

### 質問を終えて

私が大学を卒業して、亀岡市役所に勤めたのが一九七六年である。当時、養護学校や障害児学級を卒業した青年の多くは、就職できず自宅に閉じこもっていた。親たちは共同作業所をつくり、青年学級の開設を府に求めた。七六年に、京都府は共同作業所への補助を、七八年に障害者青年学級の補助制度を創設した。

私は、京都初の「障害者青年学級」の開設を担当した。卒業生名簿をもって、青年を訪問した。自宅に閉じこもった青年の目は暗かった。ところが、青年学級に参加し、共同作業所に通い始めた青年の目は、驚くほど輝き始めた。「自分も人の役に立てる」「生きていていいんだ」という確信に満ちていた。全国に先がけて補助制度をつくった蜷川知事は、えらい。

梅木

## 最終本会議 10月7日

## 意見書討論



光永 敦彦 議員  
(左京区)

九月府議会最終本会議では、光永敦彦議員が「意見書案についての討論」に立ちました。

光永議員は、今議会に提出された三百二十五件にのぼる「消費税の大増税に反対する請願」が総務常任委員会で審議される中で、自民、公明、民主の各委員から「大増税計画などはない」「税体系全体の中で議論するもの」などの発言があり、請願が不採択とされたことを、具体的な事実を示して厳しく批判。消費税についてのわが党の立場をねじまげる公明党委員の発言にも反論しました。また、「障害者自立支援法案の撤回を求める意見書案」など、わが党提案の意見書案への賛同を求めました。

採決の結果、日本共産党議員団が提案した「消費税大増税を行わないことを求める意見書案」「サラリーマン増税など庶民大増税の中止を求める意見書案」「障害者自立支援法案の撤回を求める意見書案」「道路特定財源の見直しと生活

関連道路等の整備を求める意見書案」は、いずれも、与党四会派の反対で否決されました。

また、与党四会派提案の「私学教育の振興に関する意見書案」「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律並びに関係法令の遵守と違法者取締りの徹底強化に関する意見書案」は全会一致で、「地方の道路整備の促進と財源の確保に関する意見書案」「障害者自立支援法案に関する意見書案」は賛成多数（共産党は反対）で、それぞれ可決され、民主・府民連合提案の「個人所得課税における各種控除の安易な縮小を行わないことを求める意見書案」は、自民・公明・新政会・共産の反対で否決されました。

## 討論を終えて

閉会本会議で意見書討論に立ったあと、民主の若手議員に「障害者自立支援法案は国会で反対を貫くのか？態度かえるなよ」と声をかけました。すると「腰砕けの議員がいるからなあ」とまるで他人事。そこで「前原代表も、中央団体は認めているが、京都の団体は撤回を求めている、悩んでいるらしいなあ。たのむで」と追い打ち。すると「論議することが大事」と言い訳。「京都市役所前で行われた反対集会では、民主党の国会議員は『廃案・撤回』と勇ましく訴えていたんじゃないの？僕も集会に出ていて聞いていたよ」というと、「……」。本会議で、「自立支援法案の撤回を求める意見書案」には反対したように、やっぱり、団体や人によって使い分けられているの？それで、なんの矛盾も感じないの？ひどいものです。

光永

## 『子どもの教育にお金がかかることが一番つらい』

(内閣府・国民生活調査「子育てでつらいことは？」)

本庄 孝夫 (山科区)



府立両大学（府大・府医大）授業料等の値上げ（1万5000円増で年額53万5800円）が提案され、与党によって可決された。

内閣府の05年度「国民生活白書」でも「子育て世代の所得は伸びていない」と報告され、子育て世代の家計を圧迫し、教育の機会均等や学ぶ権利を奪いかねないものとなっている。

京都では、大学の授業料も高校の授業料も、自民党政政になって以降、値上げが2～3年毎に繰り返されてきた。蜷川府政時代の20年間は高校の授業料が年額7200円に据え置かれたが、現在は11万5200円（月額9600円）となり、府立高校の授業料減免は高校生の12%（4722人）にも及び、私立学校の授業料滞納者も増加している。教育費の父母負担の軽減が急務となっている。



## 行政の都合に合わせた養護学校の再編計画

山内 佳子 (南区)



10月1日に南山城養護学校の運動会を見学させていただきました。重度障害の子どもからそれぞれ発達段階にあわせて演技を披露してくれます。滑り台を緊張した面持ちですべる子どもたち。滑り終わったときの「やったあ」という顔。障害物をよけて走ったり、横に倒したはしごを注意深くまたいで歩いたり、生きるために必要な運動能力をつけるためにも訓練をされている様子が伝わってきました。南山城養護学校は現在215名のマンモス校です。そのために朝10時から始まった運動会は夕方まで続きますが、子どもたちの出番は1～2回です。待っている間に体調が悪くなり、発作をおこす子どももいます。

府教委は養護学校の再編を府立高校の再編統合と抱き合わせて計画しました。そのために今後こうしたマンモス状態が6年以上続きます。こうした行政の都合にあわせた養護学校の再編計画が、山田知事の言う「府民発・府民参画・府民協働」なのでしょうか？

議案討論



松尾 孝 議員  
(伏見区)

松尾議員は、提案された議案二十四件のうち、府立大、府立医大の授業料等値上げ、「海と星の見える丘公園」の一部供用開始に向けた条例改正、「舞鶴和田ふ頭への橋梁建設の三件に反対し、他の二十一議案に賛成の討論を行いました。

松尾議員は、府立大、府立医大の授業料・聴講料の値上げは家計を圧迫し、少子化対策に逆行するとして反対。「海と星の見える丘公園」の一部供用開始に向けた条例改正について、「公園建設自体に反対である」として、丹後の振興を図るといふなら、優れた自然景観、歴史と文化遺産を生かした積極的な観光振興をはかるべきで、府中パイパス、伊根パイパス等の整備を急げと主張しました。また、和田ふ頭建設は貨物取扱量の過大な拡大予測にもとづく不要不急のムダな公共事業であり、ふ頭への橋梁建設を中止せよと求めました。

松尾議員は、一般会計補正予算案の中

討論を終えて

久々の討論でしたが、知事提案を吟味する中で、府政の基本をどこに置くのか、文字通り府民の暮らしの目線に立つことの大事さを実感しました。

その典型が宮津市の波見に建設中の「海と星の見える丘公園」ですが、リゾート計画の後始末としか言いようのないこの公園に何十億円もかけてどうするのかといわざるを得ません。「21世紀は環境の世紀。近畿一円の環境学習の場にする。丹後の観光振興にも役立つ」との触れ込みですが、誰一人望んでもいないこんな公園をつくる必要は全くありません。すでに大失敗の烙印が押されている「あじわいの郷」の二の舞になるのではと心配でなりません。

松尾

の企業立地補助金の増額について、補助対象雇用人数が少ない実態を示し、要件の引き上げによる改善を強く求めました。また、アスベスト対策について、二次検診についても助成を行うなど健康対策に万全を期すこと、解体作業に伴う飛散防止対策や濃度の測定などの義務づけ、無利子・無担保・無保証人のアスベスト対策融資の創設などを求めました。

最後に松尾議員は、今議会に提案された「文化力による京都活性化推進条例」「国民健康保険調整交付金に関する条例」「伝統と文化のものづくり産業振興条例」「豊かな緑を守る条例」について問題点を指摘、その運用にあたって府民の利益が守られるよう、改善を要望しました。

税金のムダ使いをやめ  
地震など災害対策の強化を



前窪 義由紀 (宇治市・久御山町)

KBSテレビ「政治を語る」に出演し、テーマ「自然災害と公共事業」について議論した。

私は、西日本も活動期に入ったとされる地震対策について、府も本腰を入れるべきだと強調した。

活断層調査では、府南部の黄檗断層、城陽から奈良に至る奈良東縁断層帯の調査が、奈良県側は詳細な調査が終了しているのに、京都側は手をつけられていない。

また、避難場所になっている学校等の耐震化が50%程度で心もとない限り。阪神大震災では、死亡者の8割が住宅の倒壊によるもので、住宅の耐震補強が決定的に重要だと指摘した。

第2名神などムダな大型公共事業をやめ、地震・風水害等から住民の命と暮らしを守る「府政への転換」が求められている。



KBS京都テレビ「政治を語る」に出演(8月21日)

伝統産業の振興発展に  
役立つ条例に



原田 完 (中京区)

9月議会には、「伝統と文化のものづくり産業振興条例」が提案されました。6月議会後から条例へのパブリックコメント募集がおこなわれ、私も各方面にパブリックコメントへの意見書の提出をお願いに回りました。

今回のパブコメに当たって、業界団体の皆さんや職人さん、事業者の皆さん、業界紙の幹部の方と意見交換をさせていただき、多方面の方々から多くの意見書が提出され、条例に一定の反映もありました。

職人への位置づけが配慮規定となっている点について、行政の責務、事業者の責任、府民の責任と同じ役割を明確にすべきと指摘を行ないました。

また、同時に、伝統工芸・伝統産業の職人の育成と生活が維持できるように、行政が主導的役割を果たすべきだと指摘をしました。

伝統産業の振興発展に引き続き頑張りましょう。

## 9月定例府議会に提出された請願

請願名	請願者名	紹介議員 会派	審査結果	共 産	自 民	民 主	公 明	新 政
消費税の大増税に反対する請願 (325件)	消費税をなくす京都の会、 京都府商工団体連合会ほか	日本共産党	不採択		×	×	×	×

## 9月定例府議会に提出された意見書案

意見書案名	提出者名	採決結果	共 産	自 民	民 主	公 明	新 政
消費税大増税を行わないことを求める意見書案	日本共産党	否決		×	×	×	×
サラリーマン増税など庶民大増税の中止を求める意見書案	日本共産党	否決		×	×	×	×
障害者自立支援法案の撤回を求める意見書案	日本共産党	否決		×	×	×	×
道路特定財源の見直しと生活関連道路等の整備を求める意見書案	日本共産党	否決		×	×	×	×
あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律並びに関係法令の遵守 と違法者取締りの徹底強化に関する意見書案	自民・民主・公明・新政会	可決					
私学教育の振興に関する意見書案	自民・民主・公明・新政会	可決					
地方の道路整備の促進と財源の確保に関する意見書案	自民・民主・公明・新政会	可決	×				
障害者自立支援法案に関する意見書案	自民・民主・公明・新政会	可決	×				
個人所得課税における各種控除の安易な縮小を行わないことを求める意見書案	民主	否決	×	×		×	×

### 警察常任委員会で 初めての質問



西脇 郁子 (下京区)

新しく警察常任委員になって初めての所管質問時のこと。

木屋町の「風俗無料案内所」を設置数が少ない今のうちに厳しく規制すべきではないかという私の質問中、警察本部長は、ずっと苦虫をつぶしたような表情。あとで聞けば、実は本部長はいつもそうだということで、思わずほっとした次第です。

さて、質問の前に原田完議員や地元の皆さんと「風俗無料案内所」を中心に木屋町を調査してきましたが、大阪のミナミやキタのようにならないよう、今のうちに歯止めをかけることが必要です。



木屋町を調査

### 障害者「自立支援」法案は 再び廃案に



加味根 史朗 (右京区)

今の特別国会に障害者「自立支援」法案が再提出されています。私は、厚生労働常任委員会で、障害者や家族、関係者が強く反対している「応益負担の導入」に府は反対し、国に意見をいうべきだと要求しました。

審議の中で、10月2日に500人の参加で開催された「障害者フォーラム」で紹介された、全身が不自由な重度障害者が、ヘルパーの全面介助をうけ自立した一人暮らしをしているビデオをとりあげ、重い障害者にとって、ヘルパーのきめ細かな介助は自立した生活と人間らしい生活にとってかせない。こういう障害者に重い負担を強いるのは、「寝たきりの生活をしておけ」「外に出るな」「自立を考えるな」というに等しい。障害者の切実な声に耳を傾けるべきだと強く求めました。

ところが保健福祉部長は、応益負担に賛成し、「どこまで負担できるかがポイント」などと答弁する始末。私は、障害者の自立をすすめる府の立場にも反する重大な答弁だと厳しく批判しました。